

歳の暮れ 忙たゞしい日暮れと共に、寒氣迫る師走の夜空は、薄墨色の様な野分の合間に輝き始める。

1938 年

12 月の天象

北 天 北極星は常と變らないが、小熊は下の方に、淋しくブラ下り、北斗の指針も地下にある。龍は西北に長い身をクネらせて居る。

西 天 西の地平線近くには、琴、鷺が今月限りの餘光を放つて居る。白鳥は未だ少し高目に型のいゝ十字を突つ立てゝ居るが、これとて最早や程遠からず沈むだらう。木星が少し南寄りに、やはりサヨナラをしかけて居る。

南 天 相變らず淋しい、土星の南中が少し慰めになるだけである。

中 天 北斗の指針は役に立たない代りに、ベガスの四角とアンドロメダの δ , β , γ の三星が柄に、小北斗によく似た型を示し乍ら、堂々と北極を指し、剩さへカシオペアの W が、同じく中天に在つて體ぐるみ北極星に向つて居る、三角や牡羊は小さい乍らも、やはり一つの賑はしになつて居る。續いてペルセから“すばる”へかけても仲々面白い。

東 天 駁者と牡牛が、主星のカペラとアルデハランをほぼ等高に置いて競ひ、オリオン、双子も、又、其れに續く。更に少し夜更を待てば、小犬のプロシオン、大犬がシリウスといよいよ舞臺は明るくなる。

太 陽 月初めは“蛇遣ひ”に未だ居る。中旬に射手座に移つて、間もなく冬至となる。そして其のまゝ越年する。簡単に表記すれば。

日付	赤 經	赤 緯	晝 間	夜 間	夕刻の薄明終焉
日	時 分 秒		時間 分	時間 分	時
1	16 25 31	—21° 40'	9 59	14 1	18 15
6	16 47 10	—22 23	9 54	14 6	18 15
11	17 9 3	—22 56	9 51	14 9	18 16
16	17 31 7	—23 17	9 49	14 11	18 18
21	17 53 18	—23 26	9 48	14 12	18 20
26	18 15 30	—23 24	9 49	14 11	18 23
31	18 37 40	—23 10	9 50	14 10	18 26

冬至を中心に、日の短かい絶頂になる。海に圍まれた日本では、冬至が來て

も、何等一陽來復の感はしない。いよいよ氣候としては冬に入る。たゞ、夕刻の日没と、薄明終焉だけが、上旬を絶頂に、少し遅くなつて行き、月末は11月の初めにまで回復して来る。

月 1日、月齡9.5が“魚”座に始まる。表にすれば

日付	月齡(21時)	視直徑	星座	時刻	記事
7 ⁿ	15.5	32' 48"	牛	19 ^時	満月
9	17.5	33 07	双子	10	最近
14	22.5	31 49	獅子	10	下弦
22	0.7	29 37	射手	3	新月
25	3.7	29 25	山羊	4	最遠
30	8.7	30 27	魚	7	上弦

の如くである。闇夜が無くなるのは7日と8日。月の無いのは21日から2日までである。然し氣付くのは先づ月齡4.7の26日位からだらう。

水 星 14日の内合を中心にして、都合よく見られない。

金 星 先月末内合してから曉天に移つて居る。夜明けの遅い頃だから少し早起きすれば10日頃からもう曉天の金星は目によく映ずるだらう。下旬にはウント離れて、26日、—4.4と云ふ物凄光輝に達して、見る者に一層寒さを感じしめやう。

火 星 漸く日没前3〜4時間早く昇る様になつて、視直徑も4."5位になつて來た。光度も1.7等級になり一寸赤味が氣を引く様になつて來た。御楽しみは來夏まで……。

木 星 もう日没と共に西南隅に在る。光度も—1.9〜1.8。視直徑も35"〜33"へと漸減の一路。但し未だ望遠鏡を向ける餘地はある。

土 星 丁度暗くなつた頃、南中して居る。少し小さくなつたが、何と云つても唯一の好位置にある遊星である。依然として輪は美しい。

天王星 前月に引續いて好位置にある。位置も割合見易い所にあるから一度是非見てやつて下さい。

海王星 獅子座に居る。下旬東廻になる。そろそろ見易くなつて來た。昇るのは夜半だが。

冥王星 依然“かに座”にあるだけ。

小遊星セレス	12月4日	3時 5.1分	+	10度14.0分	光度 +1.3
	8	3 2.1		10 19.6	7.4
	12	2 59.4		10 27.0	7.4
	16	2 57.0		10 36.1	7.5
	20	2 55.1		10 47.0	7.6
	24	2 53.5		10 59.6	7.6
	28	2 52.4		11 14.0	7.7

對衝は11月16日に過ぎたが、珍しい小遊星を見るのには未だ絶好である。
 “アルゴル”(本文記事参照)本月中好都合に見られるのは3日21時、23日22時5、
 26日19時5の三回。

ユリウス日は12月1日21時が2429234.0である。

(木邊)

11月の日食と月食

11月中には双方とも起る、先づ月食は8日早曉見られる。時刻は

月が地球の半影に入るのが	11月 ^時 8日 ^分 4 39.0
月が地球の本影に入るのが(部分食の始め)	5 40.8
皆既食の始めは	6 45.0
食甚は(食の中央)	7 26.2
皆既食の終りは	8 7.5
月が地球の本影を離れるのが(部分食終り)	9 11.9
月が地球の半影を離れるのが	10 13.9

である。最大の食分は 1.359 と云ふ珍らしく深い皆既食で、中央アジア大陸からヨロッパにかけては好都合に見られるが、日本では曉の西空に半ば見られる。即ち當日、薄明開始は、京都で5時頃であるから、日に見へて食の始まる頃には、もう可なり明るくなつて居り、皆既は日出後である上に、月自身も6時28分には西没するから、残念乍ら見られない。

22日の日食、次いで22日の新月には部分日食がある。食分は 0.778 であるが大平洋上が最も都合よく、日本では關西以東では日出時極めて僅かに缺けて居るのが見得るに過ぎない。然し殆んど第二觸の計時も無理な位であらう。折角11月には兩食が揃ふのに、共に都合よくないのは誠に残念である。